

トピックスⅢ

Hib（b型インフルエンザ菌）感染症の発生状況と Hib ワクチン

わが国の細菌性髄膜炎の発生動向は、感染症法に基づく感染症発生動向調査により、内科及び小児科医療を提供する300人以上収容する全国約470の基幹定点から報告されている。2000～2008年の年間報告数を表2に示すが、僅かながら増加傾向が認められている。図1に2006～2008年に報告された細菌性髄膜炎に占めるインフルエンザ菌と肺炎球菌の割合を示す。半数が

原因不明であるが、約2割はインフルエンザ菌が原因である。

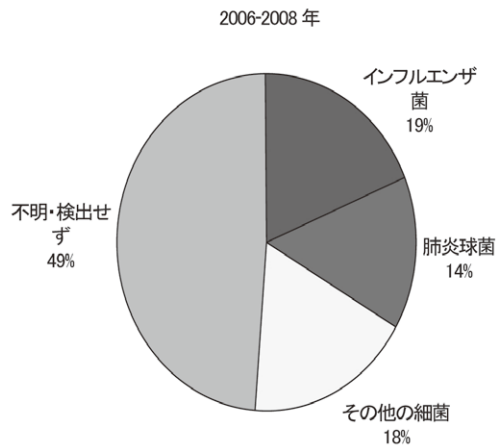
しかし、上記サーベイランスは定点報告であること、Hibによる重症感染症のうち細菌性髄膜炎の発生動向のみの把握であるため、Hib重症感染症の全貌をつかむことが困難であった。そこで、国立感染症研究所感染症情報センターでは、2009年4月から、2009年1月以降に発症

表2: 全国の定点医療機関から届けられた細菌性髄膜炎患者報告数（定点把握対象疾患）  
（感染症発生動向調査より）

		2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
細菌性髄膜炎*	基幹定点**	256	278	300	298	379	309	350	383	412

\*細菌性髄膜炎にはHibや肺炎球菌による髄膜炎などが含まれる。

\*\*基幹定点:内科及び小児科医療を提供する300人以上収容する病院（全国約470）



感染症発生動向調査2009年3月7日  
現在

図1: 細菌性髄膜炎の原因（2006-2008年）

した Hib 重症感染症の全数登録のお願いを国立感染症研究所感染症情報センターの HP に掲載し <http://idsc.nih.go.jp/disease/hib/hib-db.html>、全国の医療機関の協力を得て、その把握に努めている。

その結果、2009 年 1 月 1 日から 11 月 30 日までに 164 例が登録され、年齢は 0 歳が最も多く、その中でも 8 ヶ月齢が最多であった。病名は髄

膜炎が最も多かった。

2008 年 12 月 19 日から国内でも Hib による重症感染症の予防を目的として、生後 2 ヶ月から Hib（ヒブ）ワクチンの接種が可能となっているが、現時点では接種希望者がワクチン出荷数を上回っている状況である。定期予防接種化が期待されているワクチンの 1 つである。